

## やさしい病害虫講座 16

### 「病気と害虫のデパート」

木村 裕

家庭菜園の常連野菜の3羽ガラスの一つ、キュウリの代表的な病害虫を紹介します。

葉の表面を丸く円を描くようにかじる橙色の虫はウリハムシ(瓜葉虫)の成虫です。円を描くのが得意で、体をコンパスの代わりにして葉の表面を丸く浅く傷つけます。日が経つと、その円弧部分の細胞が死んでしまうため抜け落ちて丸い孔となります。苗の頃は被害が大きくなりますので、こまめに手で捕らえましょう。天気の良い日中は動きが活発で人が近づくとさっと飛んで逃げ去りますのですばやくキャッチ。スイカ、メロン、カボチャも大好きだと言っていました。



アブラムシもよく発生します。小さな虫ですがいつも新葉の葉裏に群がって飲み会を開いているため、会場となった新葉は縮こまって変形します。すでに開ききった葉では葉の変形はありませんが、大量のねばねばした排泄物がポトポトと落下しますので、その下方にある葉の表面は汚れ、かつその排泄物を餌とする煤病菌が発生しますので、葉は黒く汚れてきます。テントウムシさんの協力を得られない場合は早期にアブラムシ専用薬剤を散布しましょう。

根に大小さまざまな形のコブをつくるネコブセンチュウも厄介な害虫です。ミミズのような虫ですが、体長が1mm以下で白色透明ですので目

が良いのを自慢にしている人でも発見は不可能です。被害症状のみが目立ち、キュウリの生育不良の原因ともなっています。家庭菜園では防除の難しい害虫の一つです。この虫の好きなキュウリ、スイカ、メロン、トマトなどを同じ畑で続けて栽培しないように。またキュウリの株の近くにマリーゴールドを栽培しておく予防効果があります。

病気の筆頭は葉に白い小麦粉を振りかけたような斑紋が現れるのはうどんこ病です。発生初期は葉に輪郭の不鮮明な白いカビの塊が点々と発生し、被害が進むと葉全体が真っ白になり、やがて葉は元気をなくして衰弱して枯れてしまいます。気温が高く乾燥した状態が続いたときに発生が多くなります。窒素肥料をたくさん与えることは発生を応援しているようなものです。それゆえ葉が大きいことは窒素肥料が多い証拠です。発生に気づいたらトリフミンなどうどんこ病専用薬剤の散布をしましょう。



葉に葉脈で囲まれた角型の斑紋が現れるのはべと病です。最初に下葉に発生し、しだいに上方の葉へと広がって行きます。湿度が高いと発生しやすいので、詰め詰めの栽培は避けて風の通りをよくします。また肥料が不足するとすぐに発生しますので、食べ物はきちんと与えましょう。症状が現れた葉は早く切り取って処分します。

葉に発生する褐色で円形の斑紋は、炭そ病です。1円硬貨くらいの大きさですが、被害が進むとたくさんの斑紋が現れ、古くなると破れてきます。雨が降り続けると発生が多くなります。また地面から菌が跳ね上がってきますので、畝の上をビニールやわらで覆うと予防効果があります。